

クレーンが立ち並ぶ陸上自衛隊沿岸監視部隊の駐屯地建設現場  
＝与那国島、9月上旬



# 島嶼防衛と住民 与那国は今

<上>

池尾 靖志



辺野古の動向が全国で脚光を浴びる中、沖縄にも一つ深刻に受け止めるべき問題がある。それは、先島諸島への自衛隊配備問題である。これまで、「自衛隊

は国土防衛のために必要」との声が沖縄の中でもあ

り、米軍基地に対する反対

はなかって反対の声は大きく

なってきた。しかし、先島

諸島に自衛隊が配備・増強

されつつあり、集団的自衛権の行使ができるようになった今、「離島はいったいどうなっていくのか」という声が出始めている。工事が進められている与那国島を中心に自衛隊誘致・配備

いけお・やすし 1968年愛知県生まれ。国際関係論・平和研究専攻。著書に「自治体の平和力（岩波ブックレット）、2012年）、伊波洋一・井原勝介氏との共著地域から平和をきく（晃洋書房、10年）など。

、自衛隊基地建設の是非を問う住民投票条例制定の直接請求に向けた必要書類を町に提出した。9月24日、町議会が臨時議会で、住民投票条例案を2対3の賛成少数で退けた。

14年9月8日の町議選で与党3人、野党3人の同数となり、自衛隊配備推進の宮古島にはこれから地対空ミサイルや地対空ミサイルも配備され、実弾射撃場や、着上陸訓練を行う場所も設けられる予定だ。

橋で行き来できる下地島には、戦闘機の運用が可能な3000級級の滑走路を持つ下地島空港もある。有事の際には宮古空港、下地島空港、与那国空港、新石垣空港が使われ、先島諸島は一大軍事拠点となる。石垣島では、かつて北朝鮮が長距離弾道ミサイルの発射を予告した際に、2度にわたって航空自衛隊の地対空ミサイルシステム・パトリオット（PAC3）が一時展開した。

## 「抑止」か「標的」か

### 有事、先島が軍事拠点に

の問題を考えてみる。

#### 誘致と反対

「日本最西端の島」と与那国は、かつて台湾との交易で栄えた島であった。しかし、戦後、米軍が国境管理を厳しくすると台湾との交易が途絶え、沖縄の日本復帰後も衰退の途をたどった。ここに、自衛隊誘致の声が上がってくる。

与那国島への自衛隊誘致の具体化は、2008年9月5日に与那国防衛協会が、町長と町議会に514人分の署名を提出し、同月19日に町議会が賛成多数で自衛隊誘致決議案を可決したことに始まる。

自衛隊誘致派の主張は①自衛隊が入って人口が増える久部良地区の多目的集会所施設で行われた。これに対して、自衛隊配備に反対する与那国改革会議が9月20日、国内外331人分の署名を外間町長に提出した。しかし、30日、防衛省は概算要求に与那国町への陸上自衛隊配備と、賛成が反対を上回った。

このように先島諸島への自衛隊配備が急速に進められる背景として、関係者は「尖閣諸島付近での中国船の活動の活発化」を挙げている。確かに、尖閣諸島で問題が起きれば個別的自衛権の発動が必要だ。だが、安倍晋三首相のように集団的自衛権による「抑止」と言った時、果たして、日本「国土」の防衛が真の狙いだろうか。

の活性化につながる。環境の島・与那国が無防備で丸腰でいるのは、世界の常識からしても異様である。急患が出たら自衛隊へリに搬送してもらえ、災害の時も助けってもらえるといった内容であった。

米軍の後方支援 この間にも、建設予定地では造成工事が進められ、現在、上屋の建設が始まっている。「南牧場」と言われている場所には兵舎とグラウンドが建設され、山の中腹にレーダーや体育館が設置されることになっている。

増強は、中国に対する「抑止」にもなり得るが、有事の際には、中国に対する情報収集、警戒監視および偵察を行う拠点が「標的」にされる。駐屯地に後方支援用の物資が備蓄され、米軍が世界各地で紛争を起こした時の後方支援の役割を自衛隊が担うとなれば、同じく攻撃対象となる。

©琉球新報 無断複製・転載を禁止します